



信濃國一之宮 諏訪大社 由緒略誌

御鎮座地

お諏訪様・諏訪大明神と親しまれ、崇敬されている諏訪大社は、諏訪湖をはさんで南に上社、北に下社があります。更に上社は本宮と前宮、下社は春宮と秋宮に分かれて鎮座しております。氏子区域は広く諏訪圏全域（三市二町一村）にわたり、特殊な神事や信仰を守り伝えております。

- 上社 本宮（ほんみや） 長野県諏訪市中洲鎮座
- 前宮（まえみや） 長野県茅野市宮川鎮座
- 下社 春宮（はるみや） 長野県諏訪郡下諏訪町鎮座
- 秋宮（あきみや） 長野県諏訪郡下諏訪町鎮座

御祭神

- 建御名方神（たけみなかたのかみ） 男神
- 八坂刀売神（やさかとめのかみ） 妃神
- 八重事代主神（やえことしろぬしのかみ） 合祀 兄神

父神は大國主神、兄神は八重事代主神で国造りの大業を成しとげられました。八坂刀売神並びにその御子神と共に、信濃国の開拓に御神意をそそがれ、やがて、この諏訪湖畔の聖地に、お鎮まりになられました。

御神徳

当大社は古来より朝廷の御崇敬がきわめて厚く、持統天皇五年（六九一）には勅使をつかわされて、国家の安泰と五穀豊穡を祈願なされたのをはじめ、歴代の朝廷の御崇敬を拝戴してきました。



本宮 前宮



春宮 秋宮

祭事の概要

恒例の大祭

遷座祭 下社 二月一日
春耕にさきがけて神霊が秋宮より春宮に移されます。



例祭並御頭祭（酉の祭）上社 四月十五日
上社第一の祭儀で、古くは三月酉の日に行われたので、酉の祭とも呼びます。本宮での例大祭の後、御頭郷地区の氏子役員が供奉し、行列を整えて神輿を前宮十間廊に安置し、御杖柱の幣帛・鹿の頭・鳥獣魚類等の特殊な神饌をお供えして大祭が行われます。



例祭並遷座祭（御舟祭）下社 八月一日
春宮にお遷しされた御霊代を、再び秋宮へお遷しする遷座祭に引続き、例大祭が行われます。この遷座の行列の供奉として、青柴で造った大きな御舟に翁と媼の人形を乗せた柴舟を、御頭郷の氏子達が曳き付けます。神楽殿を三周した後神事相撲があり、翁媼の人形は焚き上げられます。

特殊神事

難鎌の奉斎
難鎌は諏訪大神を象徴する神器で、御分霊の勧請及び、御柱大祭の際に授与します。

蛙狩神事と御頭御占神事

（元旦 上社本宮）
本宮の御手洗川の氷を砕いて蛙二匹を捕え弓矢で射抜き、神前へお供えして五穀豊穡と国家の安泰を祈る、年頭第一の神事です。続いて宮司の神秘的な占いにより、一年間大社の重要な祭事に奉仕する御頭郷を選定する御占神事が行われます。



又、諏訪大神は武勇の神・武門武将の守護神として信仰され、古くは神功皇后の三韓出兵の折に御神威あり、平安時代には関東第一大軍神として広く世に知られました。鎌倉時代以降は源頼朝をはじめ北条氏一門、足利尊氏、武田信玄、徳川家康以下歴代の将軍、その他諸国の大名たちが社領の寄進・神宝の奉納をして武運の長久と国家の安泰を祈願しております。

広くは雨・風の守り神、水の守護神で五穀の豊穡を祈りました。又、生命の根源・生活の源を守る神であり、家内安全・健康長寿・交通安全・商工業の繁栄・開運招福など、御神徳は宏大無辺でございます。

全国諏訪神社連合会の行事

全国に御分霊を祀る諏訪神社は六、五〇〇社（神社本庁加盟神社）あり、北は北海道から南は九州鹿児島まで各地に祀られております。

毎年十月には、全国諏訪神社連合大会が本社で開催され約一千名の神職総代が御神威を仰ぎ、交流を深めております。

御社殿 重要文化財

- 上社本宮 幣殿・拝殿・左右片拝殿・脇片拝殿、以上天保九年（一八三八）、四脚門、慶長十三年（一六〇八）
- 下社春宮 幣拝殿・左右片拝殿、以上安永九年（一七八〇）
- 下社秋宮 幣拝殿・左右片拝殿、以上安永十年（一七八二）、神楽殿、天保六年（一八三五）

田遊神事（二月十五日 上社本宮）

筒粥神事（一月十五日 下社春宮）

小正月の年占神事で、春宮の筒粥殿において大釜に白米・小豆・葦の筒を入れて一晚中粥を炊き、十五日の早旦にとり出して筒を割り、四十三種の農作物と世の中の吉凶を占います。

御田植祭（六月第一日曜日 上社）
御田植神事（六月三十日 下社御作田社）
御射山社祭（八月廿六・廿七・廿八日 下社）
上下両社それぞれの御射山神社で行われます。萱の穂で葺いた仮屋（穂屋）に神職他が籠って祭を行なうので、穂屋祭とも呼ばれます。

鎌倉幕府は全国の武將を集めてこの祭に参加させ、武芸を競わせました。参加した武將は諏訪大神の御分霊を受けて任地に赴き、御分社を奉斎しました。現在は農作物の豊穡と二才児の厄除健康の祈願の祭が行われます。

式年造営御柱大祭（寅・申の年、四月山出し、五月里曳き、下社宝殿遷座祭、六月上社宝殿遷座祭）

諏訪大社の特筆すべき大祭で、社殿の建替とその四隅に「おんばしら」と呼ぶ巨木を曳建てます。起原は遠く古代に溯りますが、平安時代桓武天皇の御代からは、信濃国の国司により奉仕されました。費用や材料の調達のために元服や婚礼、家屋の新築が禁じられたこともあり、諏訪郡内二十万人の氏子の奉仕によって盛大に行われます。

御神紋 梶の葉（かじのは） 一足の数は上社四本、下社五本の区別がある

諏訪大社社務所

- 上社本宮 長野県諏訪市中洲宮山一
TEL 〇二六六 (52) 一九一九
FAX 〇二六六 (52) 三三三三
- 下社秋宮 長野県諏訪郡下諏訪町五八二八
TEL 〇二六六 (27) 八〇三五
FAX 〇二六六 (28) 七四四一